

はありません。また、アナフィラキシーショックなどの全身症状は特異的IgEが関与するアレルギー反応とされていますが、ハチ毒そのものによる薬理的作用による場合もあり、その場合は特異的IgEが陰性となる可能性があります。また、局所反応でも、刺傷部位の膨張が広範囲に数日続くような例は特異的IgEの陽性率が高く、次回刺傷時に全身反応（ショックなど）を起こす危険性が高いとされています。

- ◆ Q. ハチに刺されてから、どのくらいで採血すればよい？
A. ハチによる抗体産生までの期間を検討した報告はありませんが、一般的に、大量のアレルゲンに一度に曝露された場合、特異的IgEは一過性に上昇して5-10日程度で上昇のピークを示すとされています。個人差はあるかと思われれますが、刺傷から10日程度あけてから採血した方が確実と思われれます。
- ◆ Q. ガは、アレルゲン原料にどの種類のガのどの部分を使用しているの？
A. カイコガの翅を使用しています。また、カイコガの翅の抗原性（IgE抗体との反応性）は、野生のガやチョウとほぼ同等といわれています。
- ◆ Q. ゴキブリは、アレルゲン原料にどの種類のどの部分を使用しているの？
A. チャバネゴキブリの虫体全体を使用しています。
- ◆ Q. 蚊に刺された場合、ヤブカ（属）とユスリカ（成虫）どちらを測ればよい？
A. 蚊刺で測定できるのは、ヤブカ（属）です。ユスリカ（成虫）は刺さないタイプの蚊で、吸入性アレルゲンとして知られています。死骸が細かい塵となって舞い上がり、吸入することにより喘息や鼻炎を引き起こします。
- ◆ Q. どのカビを測ればよいの？
A. 一般的に、室内環境に存在する主要なカビとして、以下のものが報告されています。
【室内空中】クラドスポリウム、ペニシリウム（季節では5-7月、9-10月に増加し冬は少ない）
【ハウスダスト】アスペルギルス、クラドスポリウム、ペニシリウム
【カーペット、畳】ペニシリウム、アスペルギルス
【エアコン】クラドスポリウム、ペニシリウム、アスペルギルス
【水回り】クラドスポリウム、アルテルナリア
- ◆ Q. 黄色ブドウ球菌AとBの違いは？ どちらを測ればよい？
A. 黄色ブドウ球菌という細菌が産生する毒素の違いです。正確には「黄色ブドウ球菌エンテロトキシンA（SEA）」、「黄色ブドウ球菌エンテロトキシンB（SEB）」といい、アトピー性皮膚炎の重症化に関与すると考えられています。特異的IgEの陽性率に大きな差はありませんが、それぞれ独立して陽性となる例も存在するため、両方測定することをお勧めします。

2 風疹

風疹患者が30歳から50歳の男性で急増しています。特に妊婦の方が感染をした場合、生まれてくる子に眼、耳、心臓に障害を持つ先天性風疹症候群の子供が生まれる可能性があります。妊婦の方のためにも検査をしてみるのはいかがでしょうか？

国立感染症研究所の報告では2018年の風疹患者累積報告数は2008年の全数届出開始以降では2013年、2012年に次いで3番目に多く、2017年（93人）の18倍の報告数となっています。地域別では10月31日現在、東京、千葉、神奈川での感染報告が上位を占めています。

風疹はワクチンによって予防可能な疾患であり、現在報告されている患者の中心は、過去にワクチンを受けておらず、風疹ウイルスに未感染の抗体を保有していない集団です。予防接種法に基づいて約5000人規模で毎年調査が行われている感染症流行予測調査の2017年度の結果を見ると、成人男性は30代後半から50代前半で抗体保有率が特に低く報告患者の年齢とも一致しています。一方妊娠出産年齢の女性の抗体保有率は95%以上と高く維持されて

いましたが、妊娠健診で低めの方はどの年代でも20%前後いますので、注意が必要です※1
風疹ウイルス既住抗体検査には風疹HI法と風疹IgG抗体（EIA）が用いられることが多く、陽性の基準と十分な免疫があるとされる基準が異なりますのでご注意ください。（下表参照）※2

表：検査方法と判断基準の目安

<http://www.keihin.gr.jp/image/kml-pdf/husin2018-11.pdf>

参考文献

- ※1 国立感染症研究所感染症疫学センター風疹に関する緊急情報、2018年10月31日現在
- ※2 医療関係者のためのワクチンガイドライン2版、日本環境感染学会、2014

3 KML インフォメーション 9月～11月分のお知らせ

前回メールニュースを配信しました後から現在までに発行されました「KML インフォメーション」についてお知らせ致します。

各インフォメーションにつきましては、医院様へ随時お届けしておりますが、ご確認などに活用していただければ幸いです。

2018年 9月21日 検査内容変更のお知らせ

<https://www.kml-net.co.jp/information/pdf/2018-0921.pdf>

2018年 9月28日 免疫電気泳動 検査内容変更のお知らせ

<https://www.kml-net.co.jp/information/pdf/2018-0928.pdf>

2018年10月23日 インフルエンザ（H1）測定株変更のお知らせ

<https://www.kml-net.co.jp/information/pdf/2018-1023.pdf>

2018年10月26日 細菌報告名称変更及びEBウイルス委託先変更のお知らせ

<https://www.kml-net.co.jp/information/pdf/2018-1026.pdf>

2018年11月13日 新規受託項目のお知らせ（Jug r1・Ana o3）

<https://www.kml-net.co.jp/information/pdf/2018-1113.pdf>

■ □ = = = = =



最後までお読みいただきまして有り難う御座いました。

編集／発行 <https://www.kml-net.co.jp/>
株式会社 京浜予防医学研究所
〒216-0001 神奈川県川崎市宮前区野川 1432-1

= = = = = □ ■